

研究部会 活動報告書（2024年度）

研究部会の名称

バイオマス系廃棄物研究部会

研究部会の活動目的

バイオマス系廃棄物の中でも高含水率系バイオマスの有効利用に焦点を当て、様々な分野（農学、工学、経済学）や視点（原料、生産、利用）から議論を進める。今年度も昨年に引き続き特に、小型・地域分散型の高効率技術、システム開発を促進することで、地域循環共生圏づくりに寄与できるようなシステムづくりに貢献するが、特に社会実装を念頭に検討を行う。また、非会員との親睦を深めることで部会員の増員を目指す。（2024年度目的）

研究部会の設置期間 年のうち、今年度は 年目

当該年度の活動実績

活動実績を冊子体などにまとめている場合は、それを提出してください。
そうでない場合は、以下に活動実績を記述してください。

- ① 年次研究発表会における企画セッション設定の有無 （ 有 無 ） ←どちらかに○
（「有」の場合 ⇒ 企画セッション名とその概要と総括）

企画セッション名：

部会20周年記念セッション バイオマス系廃棄物利用のこれまでとこれから
～これまでの20年とこれからの20年を語る～

セッションの概要と総括：

平成18年にバイオマス・ニッポン総合戦略が閣議決定され、またバイオマス系廃棄物部会も発足してから約20年の月日を数える。その間、失敗と成功を繰り返しながらも、我が国においても徐々にバイオマスの利用が進展してきている。ただ、質や量、コストの観点から利用が困難なバイオマス、特に高含水率有機系廃棄物の利用率は低いのが現状である。そのため、これからの20年においては利用困難なバイオマスの利用を積極的に利用する技術の開発が必要不可欠である。そこでR6年度の部会企画セッションでは、R6年度廃棄物資源循環学会誌の特集号執筆者にご登壇頂き、これまでのバイオマス利用技術の失敗例や成功例を俯瞰するとともに、最先端の高含水率系有機系廃棄物の利用技術を深堀した。

岐阜大学名誉教授 高見澤一裕様

農林水産省環境バイオマス政策課再生可能エネルギー室 渡邊泰夫様

農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 三島慎一郎様

宮崎大学工学部 土手裕様

本部会企画セッションは、大会3日目9月11日（水）10時45から12時15分の1時間半で実施し、44名の現地参加者と3名のWeb参加者が活発に議論を交わした。本企画セッションを通して、バイオマス利用の重要性と必要性が改めて明確となり、また今後さらにバイオマス利用を発展・展開するための課題が共有された。そのため、今後有機廃棄物を積極的に利用しようとする企業において極めて有意義なセッションになったと考えられる。

② 研究部会独自の活動について

定例研究会やシンポジウムの開催の有無やその概要、出版活動などについて（必要に応じて、自由書式で別紙を添付してください）。

【企画セッション】

上述の通り、年次大会において企画セッションを開催した。

【部会研究委員会】

年次大会終了後に研究委員会を開催し、今後の部会方針、特に若手幹事の勧誘方法について議論を行なった。

【幹事会】

基本的にメール審議。企画セッションや施設見学会、また若手勧誘に関する議論を行なった。

【廃棄物資源循環学会誌】

有機系廃棄物の利用に関する特集号が3月号に掲載された。